

「花いっぱい運動について」を質問!!

長年にわたり、続いてきている花いっぱい運動だが、植栽をお願いしている老人クラブ等団体では、高齢化に伴い足腰が弱くなり、運動に参加できない団体も実際に出てきていることから質問しました。



アダプト団体「ピッコロの会」

問い

植栽場所を区切り、一区画毎にファミリーやボランティア団体に里親になっていただくなど「アダプト制度」により植栽を任せるといったのはどうか。

答え

県では信州ふるさとの道ふれあい事業アダプトシステムを平成15年より実施している。この事業は地域住民、団体、企業、学校が里親として県道沿いの花壇等の維持管理を行う活動を支援する制度だが、事業実施にあたっては県、町、里親希望者と協定の締結が必要となる。アダプト制度にて植栽の実施は可能。既に商工会新軽井沢支部等団体が活用して植栽をしており、また町道沿いの花壇整備や清掃活動についても地域整備課において町公共施設アダプトプログラム里親制度を実施しており、現在6団体が登録し実施している。引き続きアダプト制度活用について、花いっぱい運動の実施主体である軽井沢高原を美しくする会や広報かるいざわなどを通じ周知をしていく。

公明新聞の御購読をお願いします。

(日刊1ヶ月1,887円、日曜版293円 お得な電子版は日刊月額1,500円、日曜版250円です!)

お問い合わせは→川島さゆり TEL 080-9804-7656 までお願いします

さゆり通信

発行：川島さゆり 軽井沢町大字長倉 4280-5 TEL 46-2135

ごあいさつ

2023 年新春を迎え、皆様いかがお過ごしでしょうか。

私自身、本年 3 期目最終年を迎え、任期もあと数ヶ月となって参りました。この間、皆様方には、ひとかたならぬご厚情を賜り感謝の思いでいっぱいです。

残された任期を最後まで皆様のために働かせて頂きます。

今後とも、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

活動レポート



11月18日公明党長野県本部女性局として(眞島・川島)阿部県知事のもとへ知事要望をさせて頂きましたので、ご報告申し上げます。
知事要望; 出産、子育て。女性の健康。女性の活躍等

川島さゆり HP



12月6日公明党軽井沢支部と致しまして、眞島議員と共に私川島で、藤巻町長へ緊急要望させて頂きました。
要望内容; 妊娠期から出産・産後・育児期へと、子育て家庭への切れ目ない伴走型相談体制と経済支援の一体的実施(出産・子育て応援給付金)について

川島さゆり HP



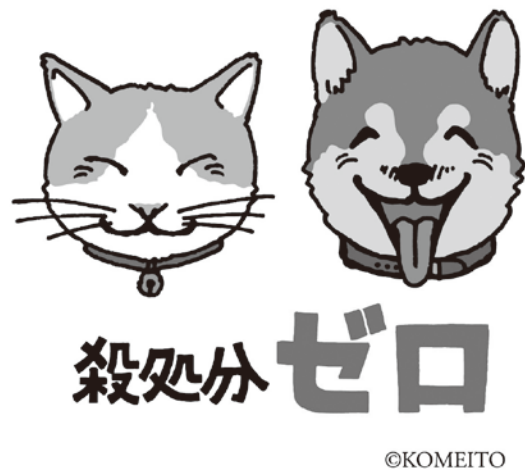
2022年12月会議 一般質問から

「ネコの去勢、不妊手術について」を質問!!

環境省によると、メスの猫は生後4～12ヶ月で子猫を産めるようになり、年に2～4回発情期を迎え、1回に4～8頭の子猫を産みます。

1頭のメスの猫が出産し、次々とその子ども達が繁殖することにより、1年後には20頭以上、2年後には80頭以上、3年後には2000頭以上という大変驚くべきデータがあります。

動物は本能で繁殖を行いますので、自らの意思で繁殖をコントロールすることができず、地域猫の増加に歯止めがかからず、困っている事例が当町でも実際に出ていることから質問しました。



問い

当町の飼い猫、地域猫、野良猫の実態は把握しているか。



問い

課題は何か。

答え

広報5月号で野良猫の情報提供をお願いした結果、約20件ほどあったので、現地確認を行い佐久保健所と情報共有をしている。
地域猫は、大日向地区1件を把握している。飼い猫は把握できていない。

答え

広報で注意喚起を行っているが、野良猫への餌やりがなくなる。手術費用が地域住民で捻出困難な場合、動物愛護協会に依頼をするが予算上地域毎に制限があり、全て実施できるとは限らない。

問い

(公益財団法人)日本動物愛護協会の補助制度やTNRの活動に対しての町の認識は。



答え

日本動物愛護協会やどうぶつ基金の補助制度は春秋2回申請時期があるが、申請件数が多く、予算も限られており実施できない事例が多い。

TNRにより大日向地区で手術を施し、地域猫に移行した活動は認識している。

TNRとは。。

Trap (トラップ捕獲)・Neuter (ニューター不妊手術)・Return (リターン猫を元の場所に戻す) 活動をしているボランティア団体のことです。

去勢、不妊手術をしたネコは、耳にカット (サクラの花びら。サクラ耳)

再度捕獲されて手術が重複されないようにしるしとして付けます。

問い

次の点が課題として上げられます。

→国の補助制度。日本動物愛護協会の補助制度(メス1万円・オス5千円)は人気ですぐに終わってしまう。

→実際メス猫1万～4万・オス5千円～4万の手術費用がかかる

→県に補助制度なし。(補助制度のある自治体は小諸市・佐久市など)

→手術費用だが補助金が0の時は、TNRさんの自腹でやってきた、ガソリン代も出ない中、不幸な猫を出さないために活動して下さっています。

→10頭、50頭など二桁になると自腹もきれない。団体さんだけにすがっていて良いのか疑問がわきます。

そこで、条件付きで、ふるさと納税寄付金のおまかせの部分やクラウドファンディングの活用は考えられないか。

答え

野良猫に関しては、ふるさと納税のおまかせメニューの充当やクラウドファンディングの活用など、他市町村の事例を参考に検討していく。



問い

高齢者等の課題として、寂しくて飼ってしまい、不妊・去勢手術が経済的、体力的にできない実態がある。今後福祉関係との連携で望まれない出産がないよう防げないか。また、捕獲や子猫の里親ボランティアなどのサポート体制の考えは。

答え

保健福祉課や社会福祉協議会、民生委員と状況把握をし、連携を密にして実態把握に努める。

情報がある程度把握できたところで、佐久保健所や動物愛護協会等と情報共有して対策を考えていきたい。